



INFORMATION DEVELOPMENT

株式会社 インフォメーション・ディベロプメント

2019年3月期第3四半期

証券コード

4709

代表取締役社長 船越 真樹

1

最新トピック

2

3Q決算概況

3

3カ年計画I-vision50の最終年度

1月
Jan.

24日 持株会社制への移行に係る新設分割計画ならびに定款の一部変更に関する臨時株主総会付議議案の承認可決

12月
Dec.

28日 「株主手帳2019年1月号」に、社長舩越のインタビュー記事が掲載

11日 メセナ活動の一環としてクリスマスコンサートを開催

7日 パリ木の十字架少年合唱団コンサートに協賛

11月
Nov.

29日 ベンチャーファンド「GoAhead Ventures II.L.P.」への出資

16日 「IR向上企業」に選定

8日 「MSS(マネージド・セキュリティ・サービス)for Seceon OTM」を開始

1日 ASOCIO Digital Masters Summit 2018に協賛

10月
Oct.

31日 会社分割（新設分割）による持株会社制への移行、定款の一部変更および臨時株主総会招集のための基準日設定等

31日 「RPA業務改革サービス」を開始

26日 2019年3月期第2四半期、通期の業績予想を上方修正

5日 オランダ王国 ザ・ハーグ・セキュリティ・デルタに日本企業として初加盟

9月
Sep.

- 26日 ピーチクリーンボランティア活動を実施
- 18日 ベンチャーファンド「ff Graphite (v), L.P.」への出資

8月
Aug.

- 31日 アイルランドActionPoint Technology Groupと覚書を締結
- 31日 慶應義塾大学とサイバーセキュリティ分野での協業を開始

7月
Jul.

- 26日 鳥取県男女共同参画推進企業に認定され、「輝く女性活躍パワーアップ企業」に登録
- 23日 AWSのパートナーに認定
- 11日 メセナ活動の一環としてサマーコンサートを開催

6月
Jun.

- 25日 当社子会社の中国政府からの表彰
- 14日 会社分割（新設分割）による持株会社制への移行の延期および定時株主総会付議議案の一部取り下げならびに役員報酬の減額

4月
Apr.

- 24日 大山開山1300年祭に向けた環境整備事業に寄付
- 16日 「第5回IRグッドビジュアル賞」を受賞
- 3日 オランダIndica Holding B.V.との協業契約締結

1

最新トピック

2

3Q決算概況

3

3カ年計画I-vision50の最終年度

売上高

19,698百万円

20.7%増

システム運営管理

- ・買収した子会社の寄与
- ・金融系運営管理業務の売上が引き続き増加
- ・プラットフォーム開発公共系の売上は増加、金融系の売上は減少

ソフトウェア開発

- ・公共系大型プロジェクトの受注による増収
- ・金融系、運輸系大型プロジェクトの収束

その他

- ・コンサルティングや海外売上の増加、
- ・サイバーセキュリティ関連の売上減少

営業利益

1,287百万円

74.1%増

- ・増収にともなう増益
- ・収益性の向上に向けた営業努力
- ・プロジェクト管理の強化による生産性向上
- ・買収した子会社との相乗効果
- ・子会社本社移転費用の計上
- ・前期のソフトウェア開発にかかるアフターコスト等の計上

親会社株主に帰属する四半期純利益

790百万円

94.7%増

- ・子会社本社移転損失57百万円の計上
- ・前期に計上した投資有価証券評価損48百万円の反動増

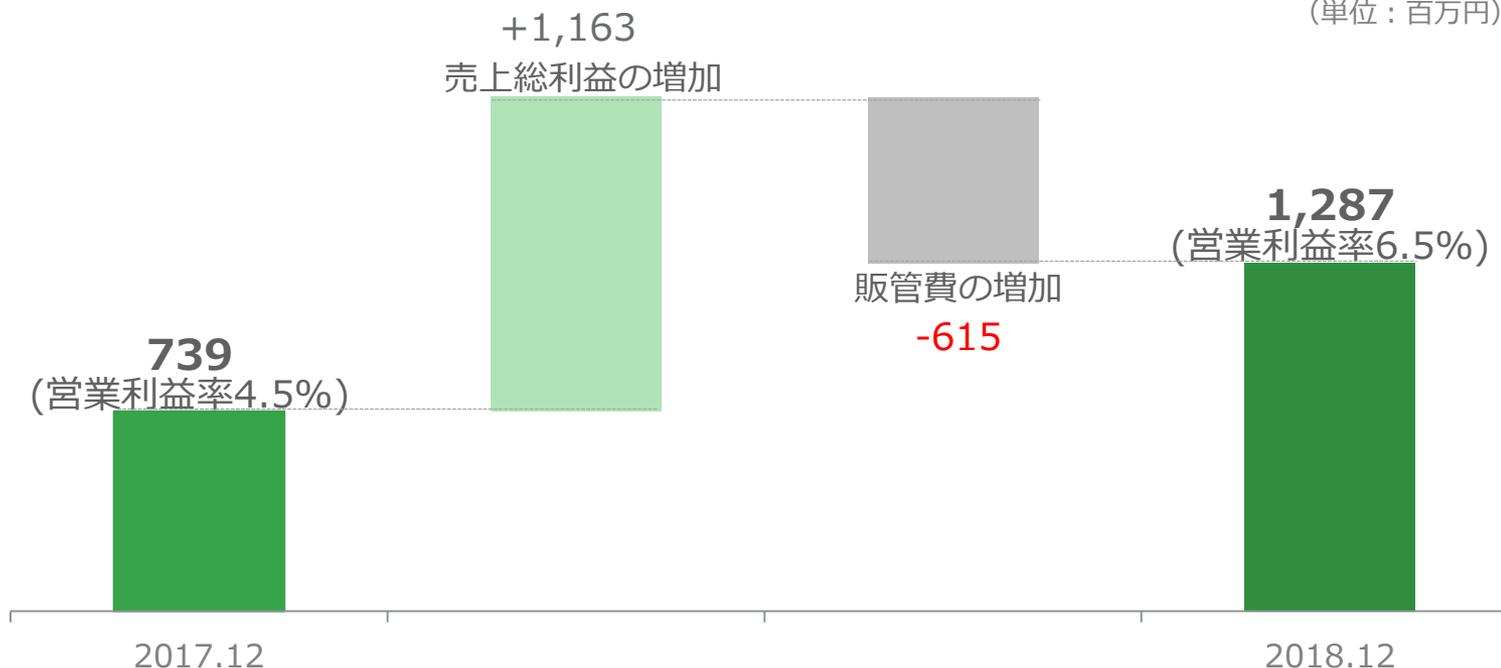
3Q連結損益状況（前年同期比）

(単位：百万円)	2017.12		2018.12		増減比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	16,323	-	19,698	-	+3,375	+20.7%
売上原価	13,310	81.5%	15,522	78.8%	+2,211	+16.6%
売上総利益	3,012	18.5%	4,176	21.2%	+1,163	+38.6%
販管費	2,272	13.9%	2,888	14.7%	+615	+27.1%
営業利益	739	4.5%	1,287	6.5%	+547	+74.1%
経常利益	763	4.7%	1,336	6.8%	+572	+75.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	406	2.5%	790	4.0%	+384	+94.7%

Change or Die!

3Q連結営業利益の増減要因

(単位：百万円)



◆ 売上総利益の増加 +1,163

- 売上高の増加 +3,375
- 売上原価の増加 -2,211

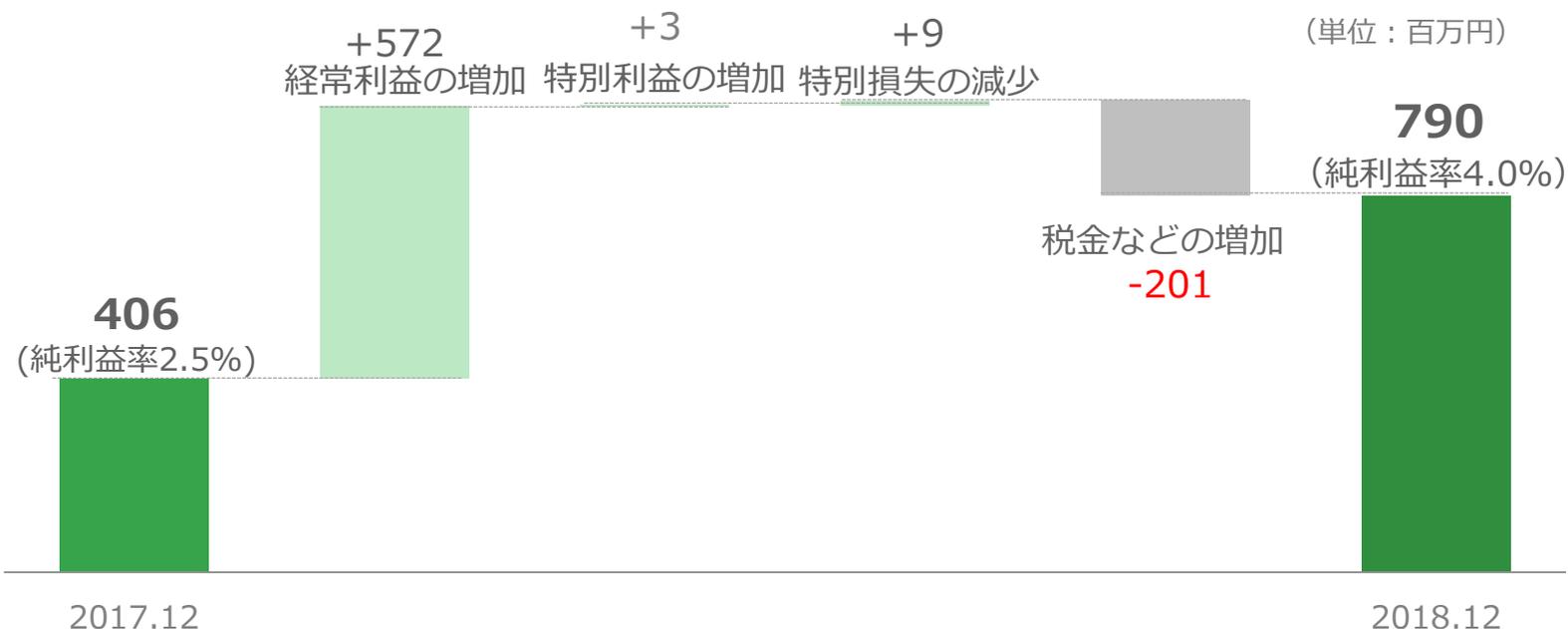
<売上原価の主な増減要因>

- ・ 労務費の増加 -1,219
- ・ 外注費の増加 -780
- ・ 製造経費の増加 -215

◆ 販管費の増加 -615

<販管費の主な増減要因>

- 人件費の増加 -286
- その他販管費の増加 -329



◆ 特別利益の増加 +3

<特別利益の主な増減要因>

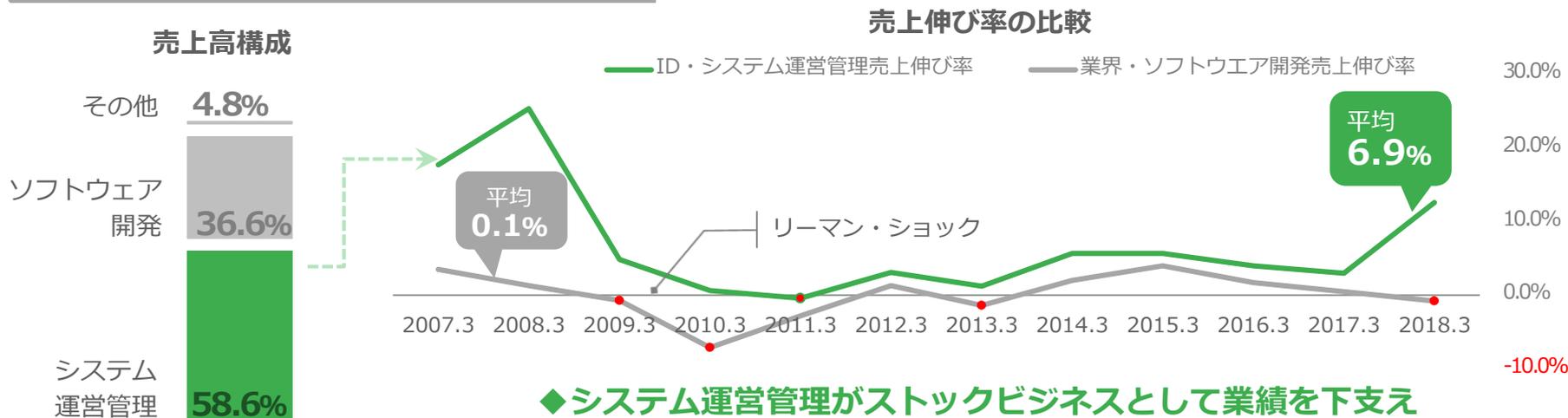
- 投資有価証券売却益 +2

◆ 特別損失の減少 +9

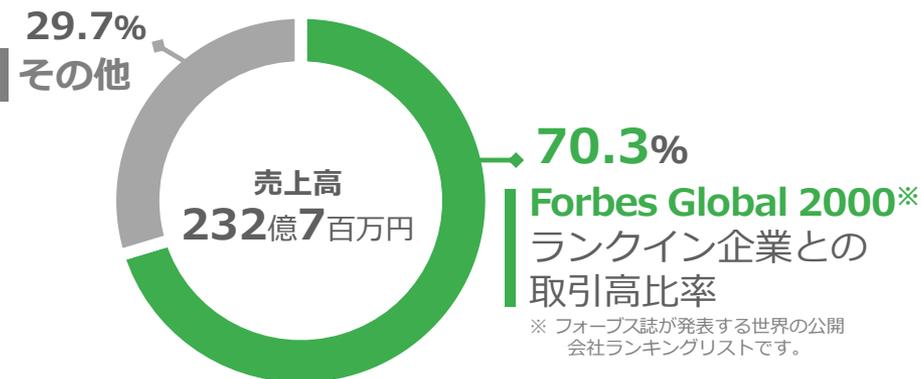
<特別損失の主な増減要因>

- 前期計上した投資有価証券評価損の反動増 +48
- 前期計上した減損損失, 固定資産除却損, 固定資産売却損などの反動増 +18
- 子会社本社移転損失の計上 -57

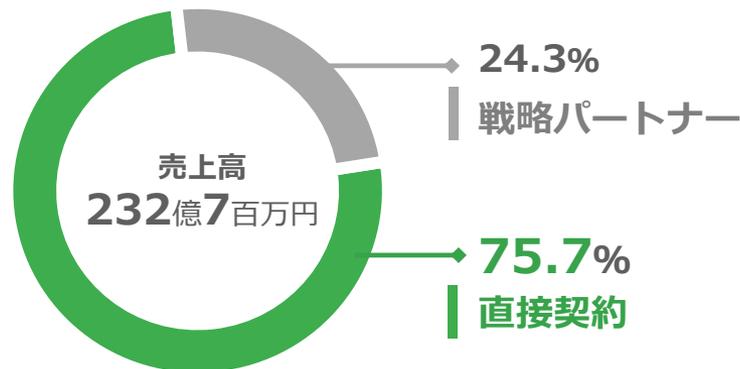
1 システム運営管理が5割超



2 グローバル大手企業との取引高が7割超



3 直接契約が8割弱

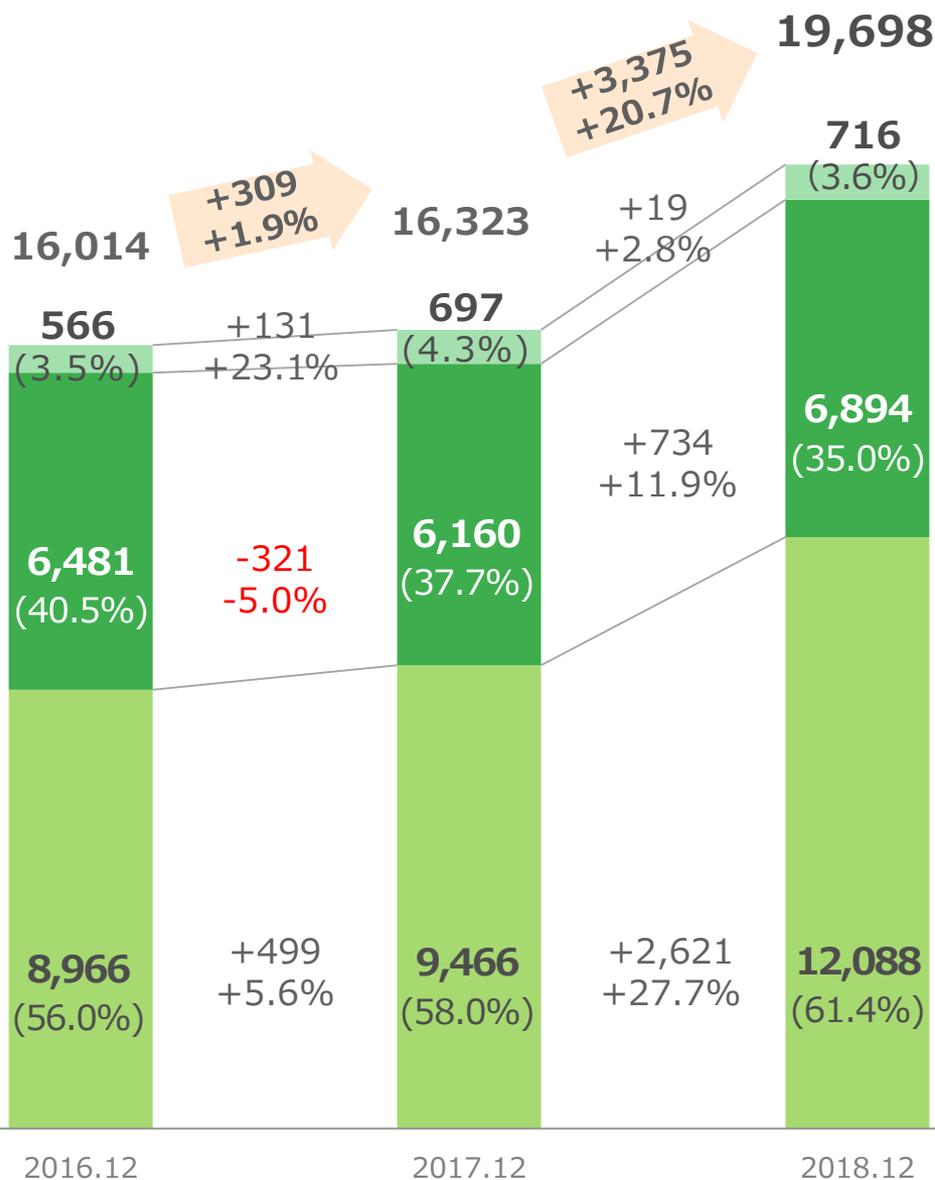


◆IT投資に積極的な大手企業と安定的な取引

◆顧客ニーズを直接把握し、的確な提案につなぐ

3Q IDグループの特徴① (事業別売上高構成)

Change or Die!



単位：百万円
() 内：売上構成比率

その他

- ・コンサルティング増加
- ・海外現地法人増加
- ・サイバーセキュリティ関連減少

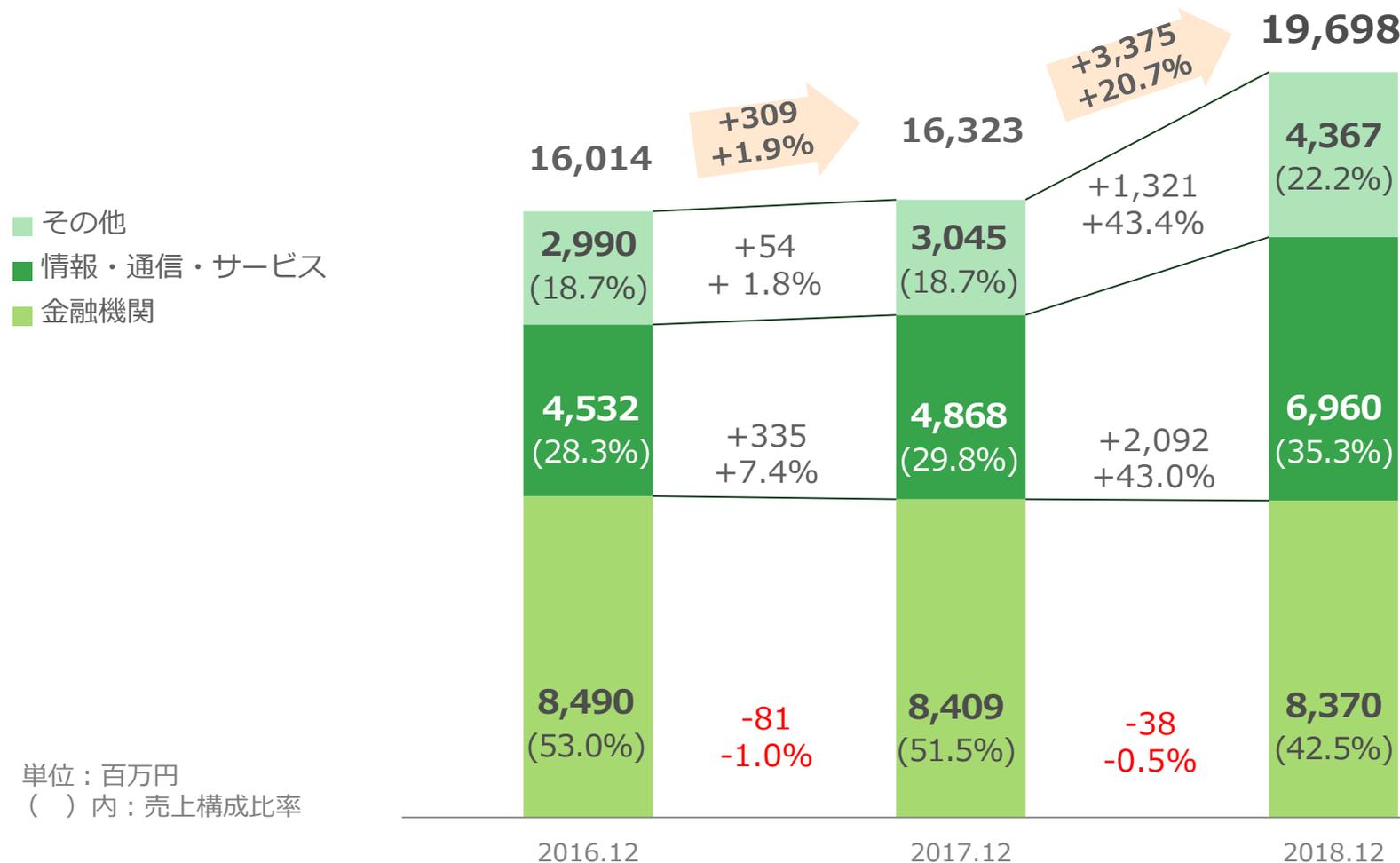
ソフトウェア開発

- ・公共系大型案件の受注
- ・金融系・運輸系の収束

システム運営管理

- ・子会社の寄与
- ・金融系が引き続き増加
- ・プラットフォーム開発公共系増加、金融系減少

Change or Die!



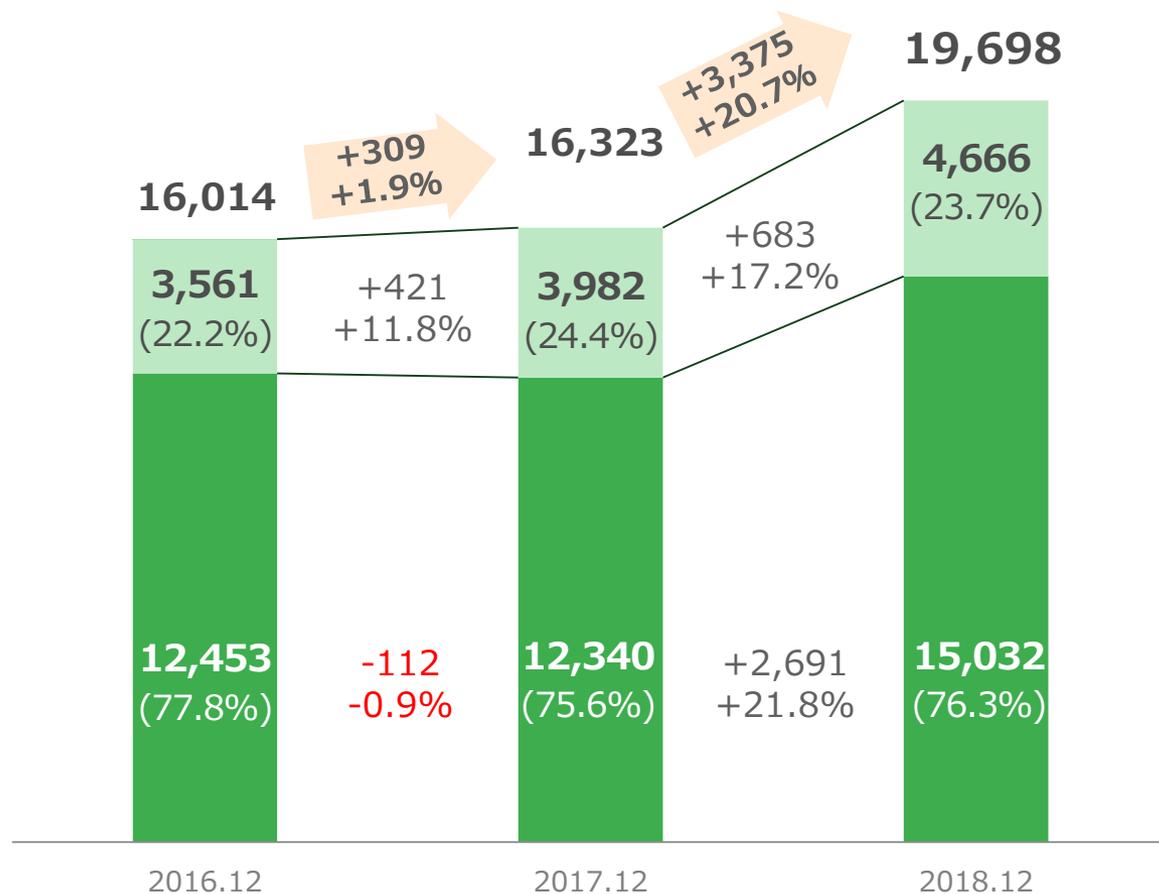
単位：百万円
() 内：売上構成比率

3Q IDグループの特徴③ (契約形態別売上高構成)

Change or Die!

- 戦略パートナー
- 直接契約

単位：百万円
()内：売上構成比率



■ 直接契約	■ 戦略パートナー
✓金融機関、エネルギー、運輸、製造	✓大手ベンダー

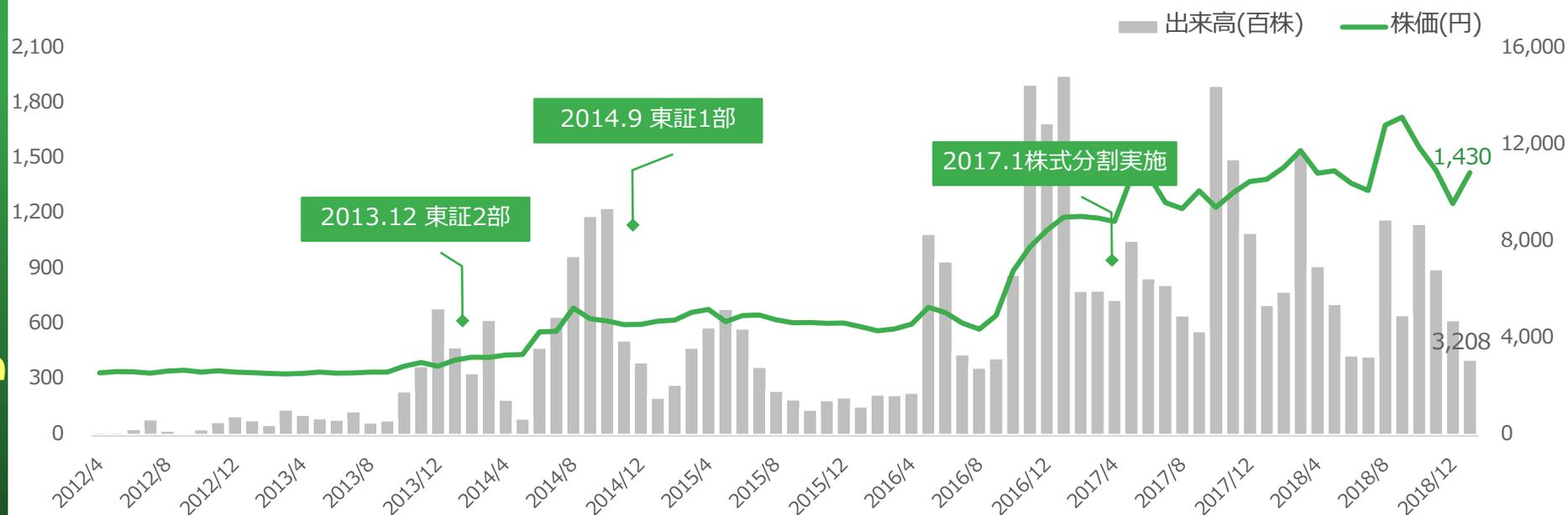
	2018.3	2018.12		主な増減要因
	(単位：百万円)	実績	実績	
流動資産	8,344	7,964	-379	現金及び預金の減少(-357)
固定資産	5,404	5,095	-309	売上債権の減少(-140) のれんの減少(-191)
資産合計	13,748	13,059	-689	
流動負債	5,923	3,927	-1,996	仕入債務の減少(-117)
固定負債	207	1,110	+902	賞与引当金の減少(-514) 未払法人税等の減少(-484)
負債合計	6,131	5,038	-1,093	
純資産合計	7,617	8,021	+404	親会社株主に帰属する四半期純利益(790) 配当金の支払いの減少(-455) その他有価証券評価差額金の増加(+36)
負債純資産合計	13,748	13,059	-689	

売買回転率

85.6% (2017.4-2018.3)

49.0%

(2018.4-2018.12)



時価総額

17,223百万円 (2019/1/31時点)

発行済株式数

12,044,302株 (単元株：100株)

(注1) 2012年4月～2016年12月の株価につきましては、株式分割にともなう修正換算をしております。

(注2) 出来高は各月の累計、株価は各月の終値を記載しております。

1

最新トピック

2

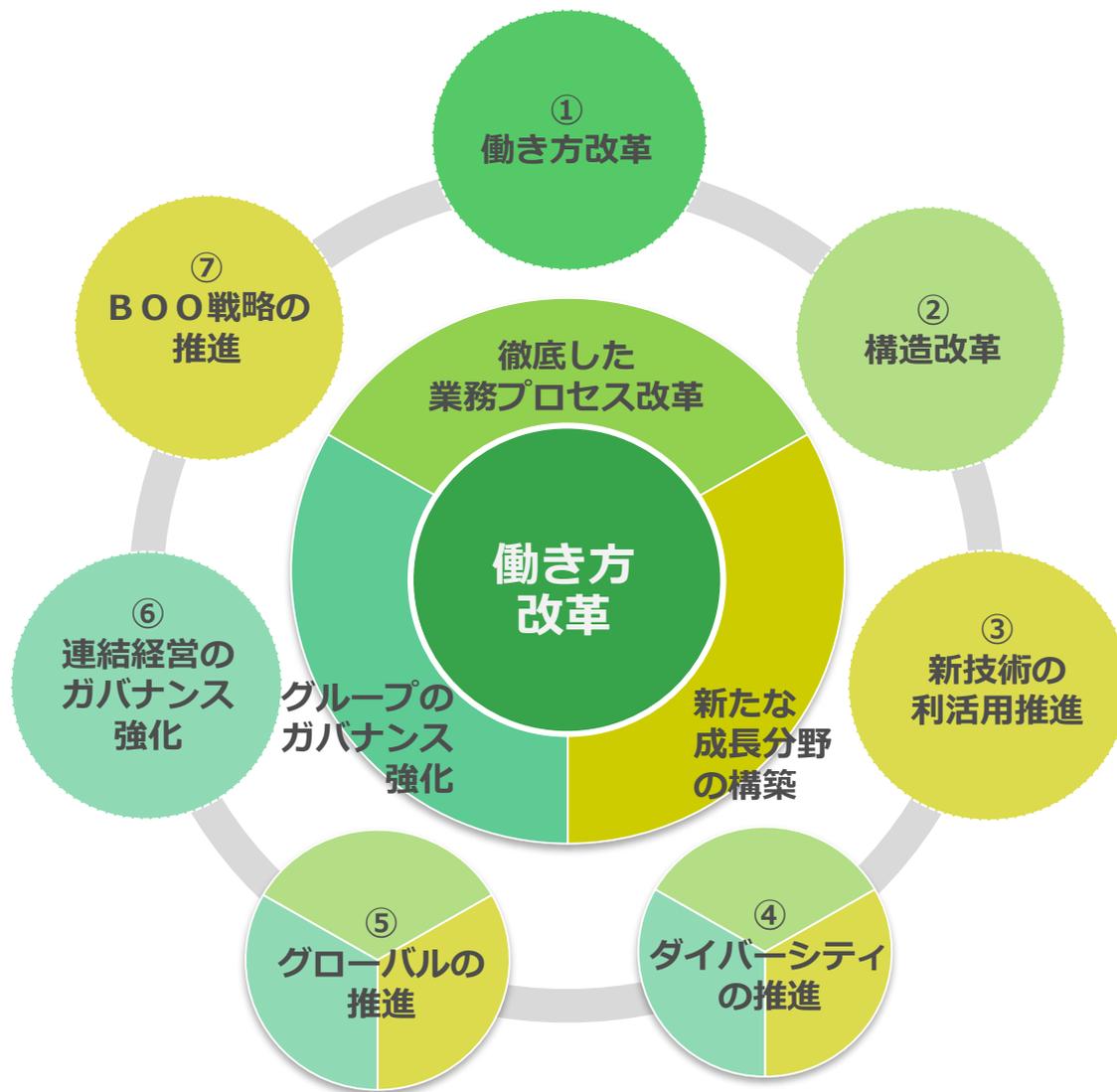
3Q決算概況

3

3カ年計画I-vision50の最終年度

社員とパートナーの パワーアップと 活性化

技術&コミュニケーション
(学習と成長)



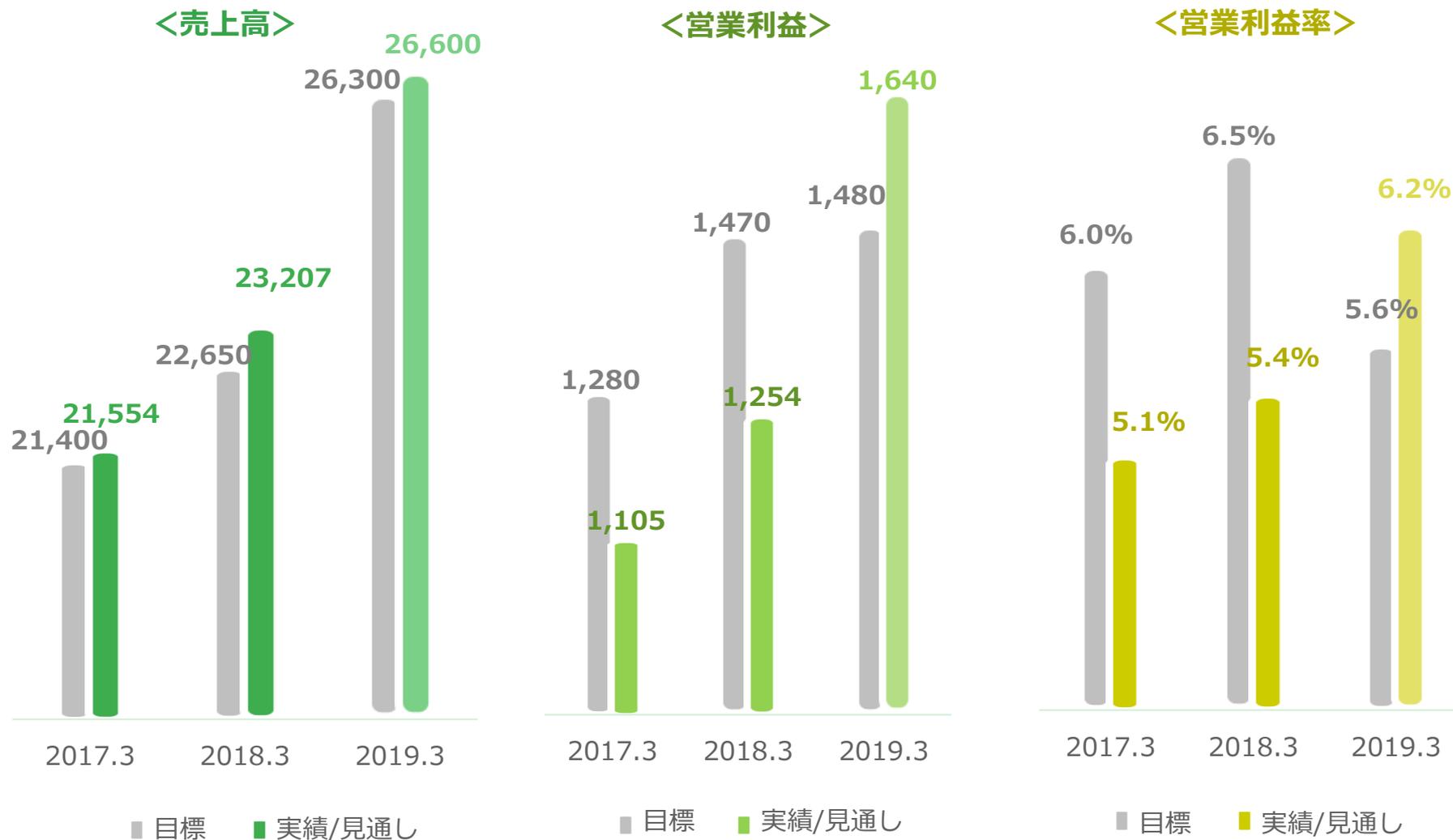
(単位：百万円)	2019.3計画(4.27発表)		2019.3計画(10.26発表)		増減額	増減率
	計画	構成比	計画	構成比		
売上高	26,300	-	26,600	-	+300	+1.1%
営業利益	1,480	5.6%	1,640	6.2%	+160	+10.8%
経常利益	1,500	5.7%	1,700	6.4%	+200	+13.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	780	3.0%	960	3.6%	+180	+23.1%
1株当たり 当期純利益(円)	70.91	-	86.93	-	+16.02	-

上方修正の理由

- ・第2四半期の業績が順調に推移し、計画を上回る結果となったため。

Change or Die!

(単位：百万円)	2018.3		2019.3計画(10.26発表)		増減額	増減率
	実績	構成比	計画	構成比		
売上高	23,207	-	26,600	-	+3,392	+14.6%
営業利益	1,254	5.4%	1,640	6.2%	+385	+30.7%
経常利益	1,274	5.5%	1,700	6.4%	+425	+33.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	622	2.7%	960	3.6%	+337	+54.2%
1株当たり 当期純利益(円)	56.84	-	86.93	-	+30.09	-



注：2018年1月にフェスを子会社化したため、2019年3月期の目標数字は2018年4月に修正しております。



- ・ RPA・AIなど新技術の発展
- ・ 下流工程単価低い



- ・ 案件の大規模化、短納期化
- ・ マネジメント人材の不足



システム 運営管理事業

上流工程の業務にシフト

RPA・AI先端技術の活用、
ソリューション化

金融分野外の分野に適用



ソフトウェア 開発事業

プロジェクト管理の強化

アジャイル開発手法の取り入れ

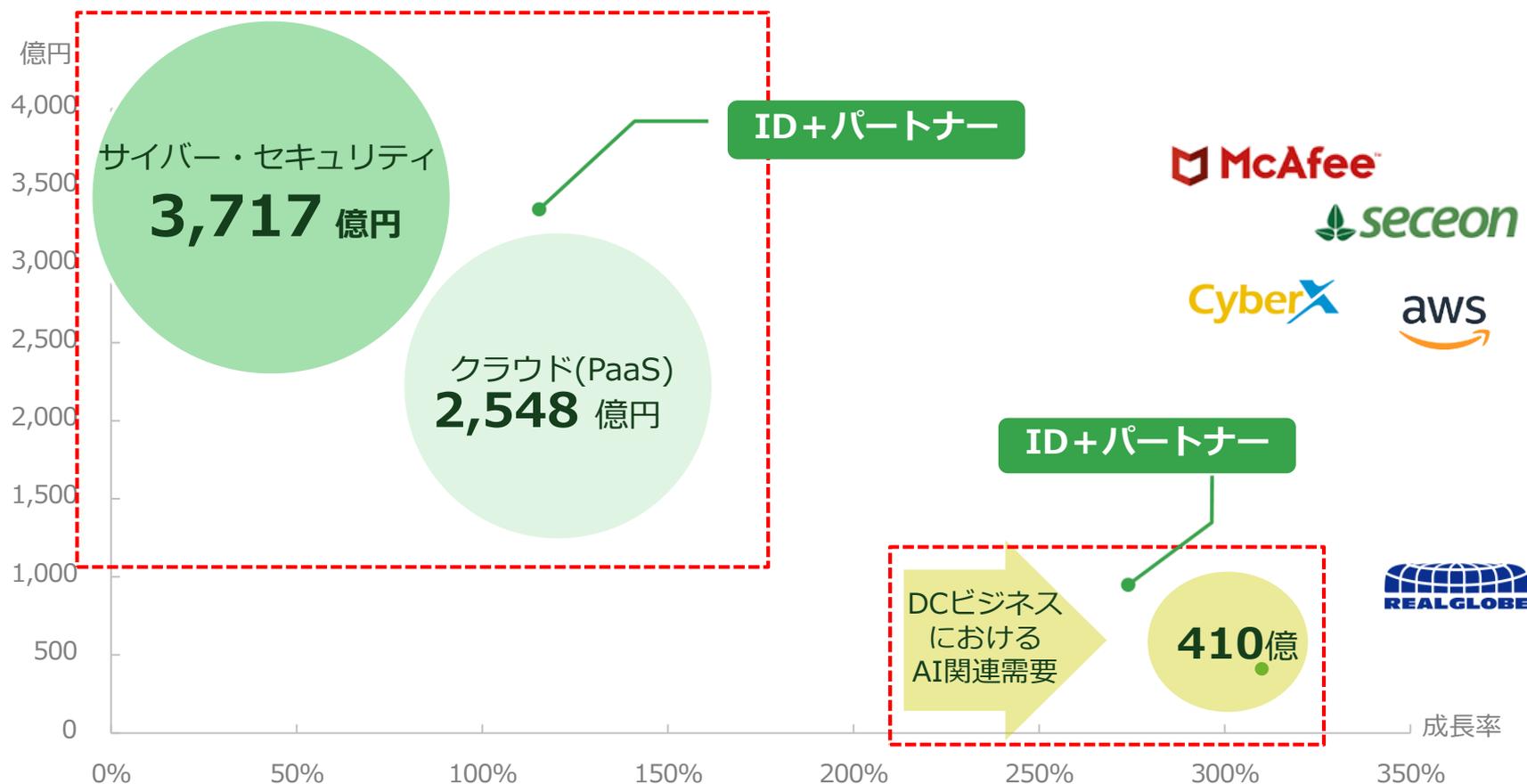
PMP資格取得の推進



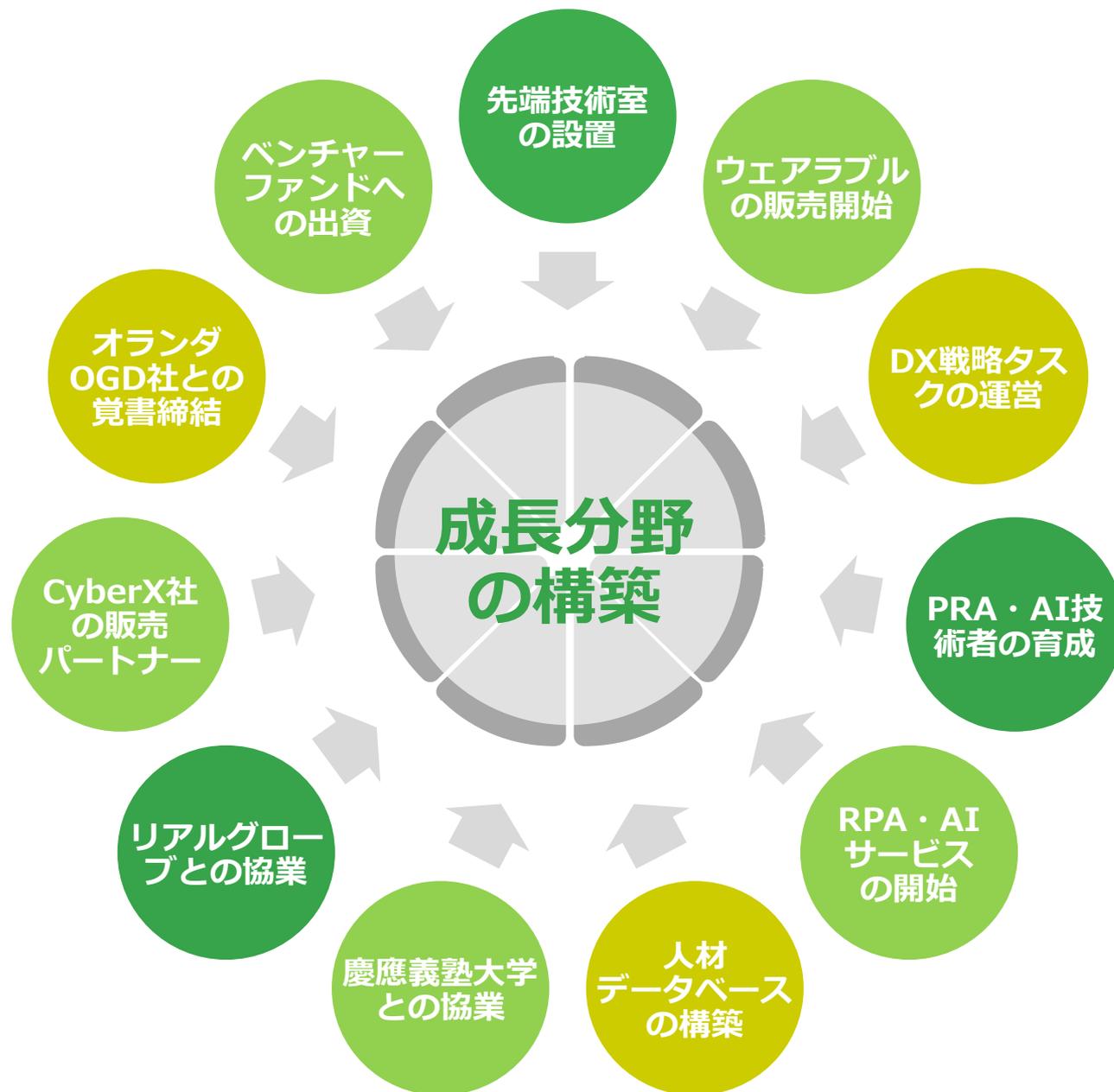
レガシーITエンジニア集団から
アドバンスト・テクノロジー・ITエンジニア集団への移行

- サイバーセキュリティ、クラウドサービス、DCビジネスにおけるAI関連需要は今後急成長の見通し (今後3年間の成長率 +35.2%、+124.3%、+310%)
- 当社は同分野をターゲットに、外部パートナーと協業

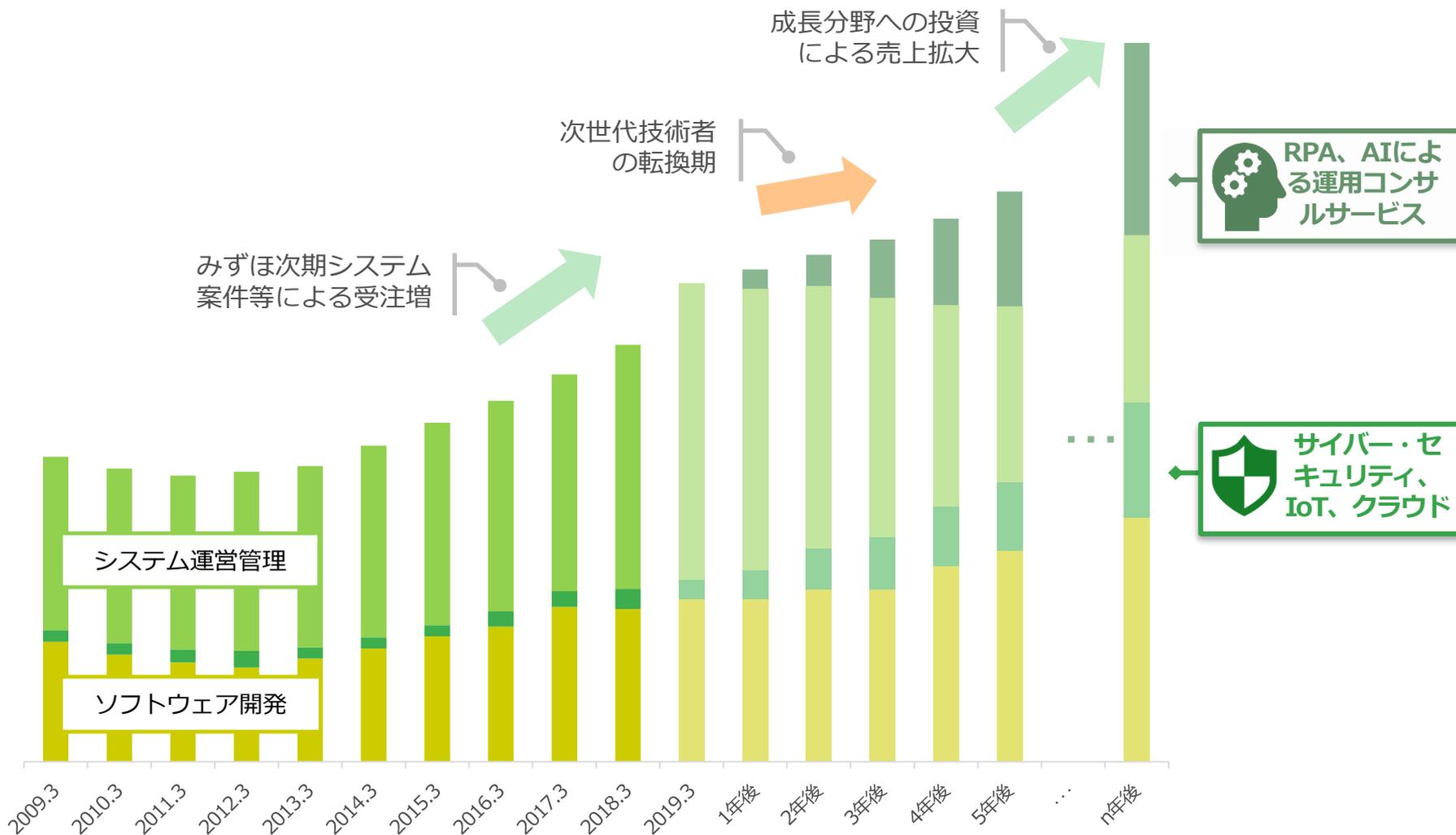
下図：2020年市場規模と2017年から2020年までの成長率



※グラフは、ITR社の「サイバー・セキュリティサービス市場動向2018」、「クラウド・コンピューティング市場2017(PaaS市場)」、富士キメラ総研の「データセンタービジネス市場調査総覧2017年版(人工知能関連需要)」を元に当社にて作成



成長分野の事業拡大による売上高拡大を図る (サイバーセキュリティ、IoT、クラウド、RPA、AI)



免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社インフォメーション・ディベロップメントの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。